

# 農業って楽しい！ 帰農した父を家族で支える



右から  
長女：朱子さん  
母：道代さん  
次女：郁子さん  
三女：律子さん

#09  
東近江市  
いのだ みちよ  
猪田道代さん  
あやこ いくこ りつこ  
朱子さん 郁子さん 律子さん

[農地面積] 4.3ha  
[栽培品目] 米・野菜  
[営農年数] 6年  
[主な販路] 市場・JA直売所

朱さんは建築業、郁さんは製造業、律さんはシステムエンジニアと、別の道を歩んでいた。それぞれ結婚し専業主婦だったが、2010年に父が認定農業者となり、ほどなく栽培品目が増えたため、農業を手伝うように。除草剤はほとんど使わず減農薬に努める。

東近江市の猪田さん一家は、母の道代さんを筆頭に、三人の娘たちが父の農業を手伝う。

父は、建築業を営みながら米をつくる兼業農家だったが、建築業を引退。融資や税金などが優遇される「認定農業者」となった。

そして田を増やす傍ら、女性も手軽に収穫できる花菜の栽培を開始。実エンドウ、ブロッコリー、カボチャなど、少しずつ栽培品目を増やすと、次第に娘たちも手伝うようになった。

収穫した野菜は、JA直売所で販売したり、市場に出荷したりしている。4年前からJAの契約栽培で加工キャベツも作付けしている。

娘たちはそれぞれ結婚し、別の市町に住む。なかには、片道約1時間かけて通う娘も。「素直に農業が楽しいんです」という。

娘の夫達は、妻が実家の家業を手伝うことについて、「日中は好きにして良いと言ってくれています。休日は農作業を手伝うことも。トラクターの運転など、非日常を楽しんでいるようです」。

朱さんは3人、郁さんは2

人、律子さんは3人（3人目を妊娠中）の子を持つお母さんでもある。未就学の子どもたちは、交代で面倒をみる。

とにかく家族同士で仲が良い。常に笑い声が響いている。そしてその内容は、ほとんどが食事の話だ。「母の料理が本当においしいんです」と娘たち。いつも昼食は一緒に食べる。農家の娘だけあつて食への関心も高い。

しかし、最初からそうだったわけではない。娘たちは農業を手伝うようになって「おかげで食べるものには困りません」。そう言いながら、一方でその苦勞を知り、少し傷んではいるが食べられるものや、規格外品を安易に捨てられないようになった。そうして持ち帰った野菜で、いろいろ試作しては感想を述べ合う。

「今は野菜をつくることで精一杯。でもいつか、加工品や農家レストランをつくるのが夢です」と、はにかみながら語った。

農家の高齢化が問題となるなか、彼女たちのような女性の活躍も期待される。



契約栽培のキャベツ。出荷規格に応じて、農業の使用法や栽培方法に細かいルールがある。



「おじいちゃんの米はおいしい！」と、子どもたちのお墨付き。



郁子さんの手作り作業エプロン。何でも入るポケットが便利。妊婦もお腹の大きさに合わせて紐の長さを調節できる。



道代さん手作りの「いなりコロッケ」。

